



進 交 会 報

Y校版

～人と進んで交わり、共に資質を高めよ。～

進交会は、横浜市立大学（市大）と横浜市立横浜商業高等学校（Y校）の同窓会です。
「人と進んで交わり、共に資質を高めよ。」は、Y校初代校長の美澤進先生（福沢諭吉の高弟）の言葉です。



現校舎



進交会館



旧校舎



美澤先生像

【目次】

理事長・校長・Y校学生会会長挨拶

進交会日より

「Y校での出会い」 長尾 寛征 氏

「グローバル部」 車塚 蘭 氏

Y校日より

部活日より

同期会日より

Y校の創建者「小野光景」の功績と

偉大さを学ぶ 川口 剛史 氏

Y校会日より

訃報

横浜市ふるさと納税で母校Y校を

支援しよう

編集後記

一六 一五 一四 一三 一二 一〇 〇九 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二

Y校とY専と横浜市大までのあゆみと進交会
横浜商業高校（Y校）は、明治15年（1882年）横浜商法学校として誕生し、種々の変遷を経て、7年制（本科5年・専修科2年）の横浜市立横浜商業学校となりました。
専修科が、昭和3年（1928年）就業年限3年の横浜市立横浜商業専門学校（Y専）に昇格して独立しました。
その後、Y専は昭和24年の新制大学発足にともない横浜市立大学商学部へ改称し金沢八景に移転しました。
進交会は、Y校とY専が兄弟校であることから、Y校・横浜市大の単一の同窓会として現在に至っています。

発行 一般社団法人 進交会

〒 231-0012 神奈川県横浜市中区相生町 6-111 電話 045-681-6575 FAX 045-681-6585

Mail : shinkokai@nifty.com (進交会) HP: https://www.shinkokai-web.jp

進交会員の皆さまとワンチームで

進交会理事長 古屋文雄



会員の皆さまには、いつも進交会事業にご協力ご支援を頂いており、厚く御礼申し上げます。この3年半は新型コロナウイルス感染拡大により、会員の皆様は本当に大変な日々をお過ごしのことだったと思いますが、コロナの位置づけが緩和され、社会全般もようやく平常に戻ってまいりました。

進交会もお陰様で同窓会員相互の交流の再開が始まっています。進交会命名の由来は「人と進んで交わり共に資質を高めよ」の美澤進先生の教えによるものであります。昨年は、Y校は140周年を迎え、市大医学部附属2病院も150周年の記念イベントが開催されました。進交会は、会員相互の交流をさらに進めるとともに、母校の発展を支援して、皆さまとともにワンチームで同窓会活動を進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

会報の分冊発行は3回目となり、分冊にしてよかったという声が多く寄せられています。進交会は「持続可能な進交会」に向けて次世代会員として中年層、若年層の会員に積極的に仲間入りしていただくことが急務です。母校愛を育み、同窓会である進交会への理解と関心を抱いていただけるものと期待します。

来春5年ぶりに開催予定の新年会で元氣な皆さまとお会いできるのを楽しみにしております。

最後に、会員の皆様のご健勝とご健康を心より祈念いたします。

Y校のさらなる発展を目指して

横浜商業高等学校校長 小間物 晃弘



三年目を迎えて、爽やかなあいさつ、そして何事にも一所懸命に取り組むY校生のパワーを日々実感しております。

昨年度は、創立百四十周年を迎えるにあたり多くの本校関係者のご協力のもと無事記念事業を終えることができました。心より感謝申し上げます。また、この三年間、コロナ禍にあつて様々な活動が制限を受ける中、進交会、Y校会からの温かいご支援は、本校の教育活動を進めていく上でたいへん有り難く、あらためて深く感謝申し上げます。

さて、「第四期横浜市教育振興基本計画」が今年四月に策定され、本校のスクールミッションとして「学科横断的探究学習活動を中心に据え、商業科におけるアントレ

プレナーシップの醸成、国際学科における身に付けた英語力と国際感覚を生かしたグローバル人材の育成、スポーツマネジメント科におけるスポーツ・健康分野に寄与する人材の育成等、学科の特色を生かした専門教育を推進します。」と発表されました。さらに各学科のスクールポリシーも発表されました。例えばSDGsを学びの切り口の一つとして、将来のあるべき自分像からバツクキャストイングし、本校での学び、さらにその後の大学や企業等での学びにつなげることで、生徒がキャリア自走できる学びの深化を図ることができればと考えています。

商業科、国際学科、スポーツマネジメント科がそれぞれのスクールポリシーを実現するために切磋琢磨しながら進んでまいります。学校全体でも生徒一人ひとりが学習活動、特別活動、部活動などにバランス良く取り組み、無限のパワーでY校をさらにすばらしい学校にしていきたいと思っております。

進交会の皆様方には引き続き温かいご支援を賜りますようによりお願い申し上げます。



商業科/商業科YBCクラス
2024年新入生募集リーフレット

母校への思いを繋げて

Y校会会長 進交会副理事長

田宮 國興(昭39卒)



卒業生の皆様がご一緒できる今年3月のWBC制覇の歓喜にはじまり、5月のコロナ感染症対策の緩和により、皆様笑顔で語り合える時がやってきました。Y校会では、7月の歌舞伎鑑賞教室および8月の暑気払いに、コロナ前とほぼ同数の方が参加され、活気を取り戻してきています。そして同窓会の柱ともいべき卒業年度別同期会の開催の報告、計画等が徐々に耳に入ってきております。私たちはこの日を待ち望んでいました。

Y校も新たに150周年に向かいスタートしました。全国的に商業高校を取り巻く環境は著しく変化し、来年3月には過去商業高校を校名にした公立高校が神奈川県内の7校からY校のみとなり、厳しい状況を迎えています。商業科、国際学科、スポーツマネジメント科の三学科が特性を活かした教育活動を行い、スポーツ面ではレベルアップを目指し、共にY校の歴史と伝統を活かして知名度と存在感を高めていかねばならないと考えます。

今夏の高校野球神奈川大会で硬式野球部が25年ぶりにベスト4を勝ち取り、Y校側スタンドを満席にしました。

Y校の伝統の力と揺るぎない母校愛を感じています。また、ポータル部は毎年全国大会で好成绩を収めており、他の部活の活躍もY校の知名度、存在感をアピールしています。今後、少子化がさらに進み、教職員の方の働き方改革等の課題もある中で、学校、後援会、卒業生、地域社会等がY校の維持発展のために一丸となつて取り組む努力と協力が肝要と思われまふ。Y校会も微力ながら支援していく所存です。

8月、Y校会では部活OB会情報交換会を開催し、13の部活OB会から23名が出席し情報、意見交換をしていただきました。学年同期会の横の繋がりによる懇親の強化と組織の拡充を目的としています。今後も適宜開催し、活性化させ有意義な会にしていきたいと考えています。

進交会館はY校の歴史の宝庫であり、卒業生の皆様が気軽に利用できる施設です。是非、機会を見つけ級友、部活の友等の語らいにお立ち寄りください。新しい発見が期待できます。

末筆ながら、卒業生の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

進交会だより

◆活動報告

※2022年度一般社団法人進交会

総会

日時：令和5年5月20日（土）

場所：進交会館3階

出席者：47名（委任状42名）
右記の通り開催しその結果、第一号議案 2021年度事業報告（案）、第二号議案 2021年度貸借対照表及び正味財産増減計算書（案）が承認されました。

【事務局だより】

◎Y校生への進交会賞（旧奨学金）、美澤皆勤賞の授与

★令和5年3月1日のY校卒業式で成績優秀な生徒7名に進交会賞を授与しました。

進交会賞受賞者（敬称略）

羽生実結、佐藤里帆、西表幸花、清水 舞、近藤 涼、安野心隆、井村くるみ

★3年間無遅刻無欠勤の生徒45名に美澤皆勤賞を授与しました。

◎市大生への進交会賞の授与

令和4年度の進交会賞は、令和4年3月22日市大「カメラアホール」にて、古屋文雄理事長から7人の学生に授与いたしました。

横浜市大トピックス

第73回浜大祭

日時 11月4日～5日（土日）

会場 横浜市大

金沢八景キャンパス

※「相続・遺贈」に関する講演会

講師：浅木克眞氏

（進交会会計理事）

正味財産増減計算書総括表

自 令和4年 4月 1日
至 令和5年 3月 31日
(単位：円)

科 目	一般会計	特別会計	美澤基金	総合計
(1) 経常収益				
基本財産受取利息				0
広告料収益等	495,000			495,000
貸室収益		37,404,708		37,404,708
共益費収益				0
光熱費収益				0
みなと倶楽部収益		5,017,133		5,017,133
文化教室収益				0
受取入会金	6,315,000			6,315,000
受取会費	3,629,152			3,629,152
受取寄付金	0			0
雑収入	489	3	2	494
経常収益計	10,439,641	42,421,844	2	52,861,487
(2) 経常費用				
会報発行費	5,399,827			5,399,827
その他の事業費	326,487	403,987		730,474
行事費	0			0
慶弔費	0	0		0
母校関係費	1,236,200			1,236,200
奨学金	715,000			715,000
みなと倶楽部運営費		7,370,169		7,370,169
文化教室運営費		0		0
諸給	2,868,480	4,302,720		7,171,200
法定福利費	63,542	95,314		158,856
交通費	116,530	595,334		711,864
通信費	860,222	83,334		943,556
管理費	39,600	1,068,315		1,107,915
修繕費		19,800		19,800
光熱費	173,307	1,559,766		1,733,073
会議費	700	233,190		233,890
消耗品費	102,980	1,655,783		1,758,763
租税公課	0	3,616,000		3,616,000
固定資産税		3,815,700		3,815,700
減価償却費		11,659,125		11,659,125
支払利息		7,193,718		7,193,718
保険料		34,900		34,900
図書費	18,949	19,319		38,268
諸会費		68,000		68,000
衛生費		1,960		1,960
雑費	186,723	29,570		216,293
経常費用計	12,108,547	43,826,004	0	55,934,551
当期経常増減額	△ 1,668,906	△ 1,404,160	2	△ 3,073,064
一般正味財産期首残高	123,229,497	△ 170,275,067	76,959,848	29,914,278
一般正味財産期末残高	121,560,591	△ 171,679,227	76,959,850	26,841,214
指定正味財産期末残高	20,359,147			20,359,147
正味財産期末残高	141,919,738	△ 171,679,227	76,959,850	47,200,361

貸借対照表総括表

令和5年3月31日現在
(単位：円)

科 目	一般会計	特別会計	美澤基金	総合計
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金	13,235,746	0	299,188	13,534,934
未収入金				0
前払費用				0
流動資産合計	13,235,746	0	299,188	13,534,934
2. 固定資産				
(1) 基本財産				
奨学基金・定期預金	12,919,147			12,919,147
基本金・定期預金	7,440,000			7,440,000
基本財産合計	20,359,147			20,359,147
(2) 特定資産				
土地	28,332,089			28,332,089
特定資産合計	28,332,089			28,332,089
(3) その他の固定資産				
建物		504,434,431		504,434,431
建物付属設備		1,143,782		1,143,782
什器備品		2,344,691		2,344,691
長期貸付金		0	76,660,662	76,660,662
その他の固定資産合計		507,922,904	76,660,662	584,583,566
固定資産合計	48,691,236	507,922,904	76,660,662	633,274,802
3. 事業間貸借	130,113,628	△ 130,113,628	0	0
資産合計	192,040,610	377,809,276	76,959,850	646,809,736
II 負債の部				
1. 流動負債				
前受金	0	0	0	0
従業員預り金	5,119	18,330	0	23,449
流動負債合計	5,119	18,330		23,449
2. 固定負債				
前受入会金	16,945,000			16,945,000
預り金				0
預り保証金		6,033,270		6,033,270
預り敷金				0
長期借入金	33,170,753	543,436,903		576,607,656
固定負債合計	50,115,753	549,470,173		599,585,926
負債合計	50,120,872	549,488,503		599,609,375
III 正味財産の部				
1. 指定正味財産				
奨学基金	12,919,147			12,919,147
基本金	7,440,000			7,440,000
指定正味財産合計	20,359,147			20,359,147
(うち基本財産への充当額)	20,359,147			20,359,147
2. 一般正味財産	121,560,591	△ 171,679,227	76,959,850	26,841,214
正味財産合計	141,919,738	△ 171,679,227	76,959,850	47,200,361
負債及び正味財産合計	192,040,610	377,809,276	76,959,850	646,809,736

Y校での出会い

横浜商業高等学校

家庭科主任 長尾 寛征(平11卒)



Y校では「家庭基礎」という科目を二年次に学びます。四月の

最初の授業で扱う「自分らしい生き方と家族」という単元では「自分らしさ」や「自分のこれからの人生」について考えます。生徒たちは悩みながらも、将来について考え、就職や結婚等のライフイベントを想像します。遠い未来のことを思い描くことは簡単ではありませんが、できるだけ前向きに自分の人生をデザインしていきます。私も「なりたい自分」に少しでも近づけるようにと、これまで様々なことに挑戦してきました。この度、進交会報への執筆の機会をいただきましたので、僭越ながらこれまでの自分を振り返ってみたいと思います。

Y校時代、印象に残っている授業は家庭科のハーフパンツ作りです。洋裁を習っていた母親の影響もあってか、裁縫が好きだった私は家庭科の授業が楽しみでした。高校二年生も終わりに近づき、自分の進路について考えた時「なぜ家庭科には男性の先生がないのだろう」、そして「どうすれば家庭科の先生になれる

のだろう」と思い、家庭科準備室に質問に向かいました。私の問いに先生は「男性は家庭科の先生になれません」と答えました。予想外の答えに頭の中は「？」でいっぱいになりましたが、当時はそれが普通の答えだったのかもしれない。

一九八九年に学習指導要領が改訂され、高校では一九九四年入学の一年生から家庭科が男女必修の科目となりました。私がY校に入学したのは一九九六年なので、私より二歳以上上の「男の先輩」は高校で家庭科を学んでいません。当時はまだ「男性は外で働き、女性は家を守る」という性別役割分業意識が残っている時代で「家庭科」は女性が学び、女性が教えるものでした。「勉強に性別が関係するなんておかしい」と思った私は、その一言を受けて「いないなら自分になる」という思いを強くしました。

その後、家庭科の教員免許が取得できる大学を調べました。調べてみると、免許が取得できる大学はほとんど女子大であるという壁にぶつかりました。条件の合う大学がなく、高校三年生の時には「なぜ女子しか入れないんですか」と訳のわからない問い合わせを女子大にしてしまうほど切羽詰まっていました。担任の先生とも相談し、やっとの思いで見つけた愛知県の大学には不合格。その後見つけた群馬県の短期大学になるとか合格することができました。

その後も家庭科を学ぶ難しさを感じる場面はいくつかありましたが、Y校を卒業して十三年後には、横浜市で最初の「男性」の家庭科教諭として戻ってることができました。共働き世帯が増え、昔のような性別役割分業意識を持つ人は減少していますが、家事育児についてはまだまだ女性の負担が多い現状があります。男性である私が「当たり前」に家庭科を教えることが最も大切だと思うので、これからも身近な課題を取り上げ、「生活をよりよくすることについて生徒と一緒に考えていきたい」と思います。

Y校で出会えたものは家庭科だけではなくありません。カヌーとの出会いは私に「オリンピックに出場する」という目標を与えてくれました。高校を卒業してからの生活は、Y校カヌー部での三年間以上に、カヌーと共にありました。短大での二年間は授業の後に利根川で漕ぎ、週末は片道三時間かけて東京の奥多摩に通いました。上達するには練習環境を整える必要があると考え、四年制大学へ編入する時には河川に恵まれている徳島県の大学を選びました。大学卒業後は更なる練習環境を求めて、強豪チームのあった秋田県へ移住し、チームメイトと練習に励みました。その一年後、アテネ五輪の予選会に出場することができましたが、残念ながら五輪への出場権を獲得することはできませんでした。

夢を諦めきれず徳島県へ戻り、二〇〇八年の北京五輪を目指してまた練習の日々が始まりました。生活の軸をカヌーに置き、アルバイトでお金を貯め、人工コースのある海外にも遠征しました。二〇〇八年五月、タイで行われたアジア選手権で二位となり、北京五輪への出場権を獲得することができました。オリンピックでの成績は九位と満足いくものではありませんでしたが、たくさんの方々のおかげで目標を達成することができました。ここまで様々な苦労がありました。その苦労を乗り越えて得た知識や自信は、教員となったこれからも役立ってくれると信じています。

Y校に赴任して今年で三年目になります。設備の整った校舎や、飛び交う元気な挨拶は私の高校時代と変わりがありません。これまでお世話になった方々へできる恩返しは、情熱を持って教育に取り組み、Y校のさらなる発展のために尽力することだと考えています。

後援会・PTA・おやじの会、この進交会報をご覧になっている全ての皆様には引き続きY校の教育活動を見守り、応援していただきますようお願い申し上げます。



うよろしくお願います。

NGOグローカリー

車塚 蘭(平29卒)

NGOグローカリーはY校の部活動を源流としたY校OBOGメンバーによる平和研究団体です。Y校で勤務していた社会科の鈴木晶先生が2006年に在校生と立ち上げた部活動が始まりですが、鈴木先生の異動を機に部活動ではなく、NGOとして活動を続けてきました。主に国際学科のOBOGがSNSで交流し、定期的に戦争体験者の証言を集めたり、フィールドワークを行ったりしています。国際学科12期生の私は社会人となった今でも活動を続けています。「なんとなく楽しそうだから」と思って入部したグローカリーの活動をこんなに長く続けているとは自分でも驚きです。

グローカリーでは、毎年数名の横浜大空襲体験者の方からお話を伺っています。去年お話を伺えた方の一人が1945年にY校を卒業した私たちの大先輩、岡野利夫さんです。岡野さんには以前にもお話を伺ったことがありましたが、ひよんなことからまた交流を持つことができ、今回は岡野さんのお姉さんとも交えて戦争の証言を伺う事が出来ました。

岡野さんは1941年に当時5年制であったY校に入学しましたが、学校生活後半になると学徒動員のため授業を受けることはできず、成績

も適切につけられないまま、4年で繰り上げ卒業することになりました。岡野さんのお話は横浜大空襲のお話がメインではありましたが、証言の中でY校での学校生活の思い出についても、たくさんお話ししていただきました。授業の朗読の時間で、教科書をさかさまに持ってしまいくラスで大笑いになった話、敵性語としてYの文字が使えず、校章がYから横商に変わったこと、戦中戦後は紙が貴重だったので、字を小さく書いたことなど、まるで昨日の出来事かのように詳細に教えてくださいました。

そのようなお話を聞く中で「戦時下でも、一人ひとりの日常があったて、私みたいに学校に行って友だちと話したり、家族との生活がある。」ということを感じました。現代社会において、戦争という「〇〇人が亡くなりました」「こういうことが起こりました。」という風にある意味他人事のように学び、歴史の授業はテストのために暗記することに重きが置かれているようです。歴史を学ぶことはもちろん大切ですが、当時のことが「戦争」と一括りにされてしまうことに私は疑問を抱きます。岡野さんをはじめ、その時代を生きてきた人々がいるように、その人たちにも一人ひとりの人生があります。戦争の犠牲になった人々は歴史の一部となる

ために生きて、亡くなっていったわけではなくて、一人ひとりが人生を生き抜きたかったのだと私は思います。

グローカリーは毎年「平和のための戦争展 in 横浜」で活動発表を行っています。今年は岡野さんの戦争体験について発表しました。発表するにあたり、岡野さんが空襲当日に逃げた経路を実際に歩き、フィールドワークをしました。日ノ出町に集合し、曙町を通り、岡野さんの実家があった場所やY校へ。戦争の跡形もない道を歩きながら、岡野さんが言っていた空襲の風景を想像しました。空襲の真っ赤な風景、空襲後の静けさ、やつとの思いで自宅まで帰ったけれども、お父さんは戻ってこなかったこと。現代の発展し、観光地化した横浜において、そういった負の歴史を感じられる場所は少なく、見て見ぬふりをするのはできません。しかし、絶対に忘れてはいけない事実があり、戦争を体験したことがない私たちの世代は自分たちから戦争の歴史を学び、自分事として語り継がなくてはいけないと私は強く思います。今回Y校生という共通点を持つ岡野さんのお話を聞いて、地元横浜のフィールドワークをしたことにより、改めてその気持ちが強くなりました。

グローカリーのメンバーのほとんどが社会人となり、以前の様に活発な活動はできませんが、Y校で生ま

れたこの繋がりを大切にし、地元横浜に根差した私たちにできる活動を続けていきたいです。



写真 左から
鈴木晶(グローカリー顧問)
車塚蘭(筆者)
福嶋海和(メンバー)
福士紗英(メンバー)

お元気なうちに入居する高齢期の住まいを提供します

奈良ニッセイデン 松戸ニッセイデン

1986年 市大卒
常務理事 鈴木貴之
奈良(募集担当) TEL.0800-888-4165
松戸(募集担当) TEL.0120-82-4165

公益財団法人 **ニッセイ聖隷健康福祉財団**
e-mail:uzuki@nissay-seirei.org

1999年 市大卒
本部 人事総務部長 前川規
TEL.03-3662-3611

一般財団法人 **くゆゆの里**
日本老人福祉財団
e-mail:maekawa@yuyunosato.or.jp

1999年 市大卒
宝塚エデンの園 園長 請川哲也
TEL.053-413-3294

社会福祉法人 **エデンの園**
聖隷福祉事業団
e-mail:ukegawa@sis.seirei.or.jp

Y校だより

◆「着任のご挨拶」

横浜市立横浜商業高等学校

副校長 堀 慶司



4月に横浜商業高等学校に着任いたしました。副校長の堀と申します。

約20年間小学校の教員を務め、副校長となつてからは、小学校、中学校、高校と3つの校種を経験させていただいております。小学校の6年間で成長した子どもたちが、中学校、高校での様々な学習や活動、経験を通して、心身共にさらに充実していく様子を間近で見られることができるのは、とても貴重なことだと感じています。

140年の歴史と伝統のある横浜商業高等学校では、特色のある4つの異なる教育課程で生徒たちは学びを深めています。そして、社会に大きく貢献できる人材を育成しようと、教職員が一丸となつて生徒と関わっています。私も微力ながら、そんな生徒や教職員の力となれるよう、努力していきたいと感じているところです。

長く続いた制限のある中でのご生活でしたが、ほぼ制限がなくなり、生徒が活躍できる場が増えてきました。

進交会の皆様におかれましても、本校の生徒や教職員、そして様々な教育活動に、今後もお支援助、ご協力をよろしくお願いいたします。

◆商業科の今後の取組みについて

商業科教科 主任 宝珠山 悟

昨年度、創立百四十周年を迎え、歴史と伝統がある横浜商業高等学校の新たな一ページを作り出す、令和五年度となりました。卒業生の方々からも商業教育や学校教育に対しての暖かいお言葉やアドバイスをいただきました。本当にありがとうございます。

そのような中、コロナ禍が令和五年の七月現在はやや落ち着きを見せてきております。生徒達も校内での授業や部活動が、色々と制限されている中で活動を行ってまいりましたが、ようやく校外に出での活動が行えるようになってきました。創立一五〇周年に向けて、生徒たちの活動をより高めていく内容を、現在、商業科の教員総出で作りに出しています。

さてこれからのY校商業科の取組みを考えていくうえで、整理整頓すべき事案があります。現代はAIの発達に伴う、職業観の変化や私たち人間の行動の変化などが求められている時代だと言われています。確かに、高い専門性や技術力がなければ、今の時代に取り残されてしまう可能性はあります。そうしたことを

軽視するつもりはありませんが、Y校の商業教育に必要なことは、違うことなのではと感じています。今の時代に適合した新しく斬新な取組みを行っていくことも大切なことですが、私は以下の二点が大切なことだと考えております。

一点目が、原点回帰ともいえるべき、地域に貢献できる教育活動の実施です。具体的には、現在は小さな活動ですが、地域で開催できるイベント作りを考えており、いずれ蒔田地区や南太田地区での地域イベントを行うことができると考えています。

二点目が、「心の誠」の精神をしっかりと踏襲することだと考えています。時間が限られている中で、行動が急かされている現代こそ、商人としてお客様をいかにもてなすのかという精神が大切になるのではないのでしょうか。心を育てることはとても時間がかかることです。しかし、一度身に付けておけば必ずや社会に出てから役に立つはずで、これからも地域に貢献でき、時間をかけてでも「心の誠」を受け継ぐ生徒を育てていく所存です。これからも卒業生の皆様からの、暖かくも厳しいお言葉やアドバイスを是非ともよろしくお願いいたします。

◆YBCクラスの近況報告

YBC経営会議主任 佐藤 邦宏

YBCクラスは、今春、14期生を

迎えました。YBCでは、次代を切り開くビジネスリーダーを育成することを目的とし、大学進学を前提としたカリキュラムで、幅広い教養とビジネスの基礎基本を習得できるクラスになっています。高大7年間を見据えたカリキュラムと特別プログラムを通して、将来設計を進めながら、将来のスペシャリストを目指しています。

昨年度は、課題研究において関東学院大学との連携や、横浜市立大学や中央大学などで講義を体験させていただきました。また、YBCの卒業生に来校していただき、先輩講座を開催し、リーダーとしての資質を磨くことはもちろん、大学で何を学びたいのか、各プログラムを通して下級生のうちから行きたい大学への意識を高めています。放課後には英検の講習会やWEB演習システム（タブレットやスマートフォン）を導入し、学習面のサポートも行っています。

令和5年3月の卒業生の進路状況は、37名中26名が4年生大学に進学。「一般受験合格者が8名（青山、学習院、専修等）学校推薦型・総合型選抜19名（横浜市立4名、中央、駒澤、東京農業、専修、神奈川歯科）等」専門学校3名、公務員2名、民間就職1名、進学準備者4名となっております。

◆国際学科の近況報告

国際学科主任 小島 寛子

今年度、国際学科は20周年を迎えました。海外への渡航が認められないこの数年は歯がゆいものでしたが、できることを諦めずに全力でやる、という姿勢をまずは教員から見せています。ここでは2つご紹介いたします。まず、3月に訪れたUNIS-UN会議への参加です。3年ぶりに行われることになったニューヨーク国連会議場での対面開催に、5名の生徒が参加することができました。進交会からもご支援いただき、高校生の今でしか参加することができないこの貴重な国際会議を体験させることができました。世界との差を痛感したこの経験を、必ずや今後活かしてくれるはずです。もう一つが今年度初めて行うことができた、横須賀米軍基地にある高校との交流です。2年生が1日学校生活を体験させていただきました。



生徒達にとつては英語を学ぶモチベーションになっただけでなく、アメリカを感じることができた貴重な経験となりました。国際学科では国連が

提唱する持続可能な開発目標(SDGs)を自分ごととして考え、未解決の社会課題に主体的に取り組む姿勢を育んでいます。特に他者との対話を通して深めた考えを「行動」に起こすことを目標に、様々な活動を行っています。今年度はLGBTQへの差別をなくすために、中学校でワークショップを行いました。2学期には、教育の大切さを伝えるための中学校でのワークショップと、外国人との共存のために小学校でのワークショップを行う予定です。またY校祭でもアクションを行う有志がいるので是非お立寄りいただけると幸いです。このような生徒達の自主的な活動を支えるためには、教員側も生徒達と共に学び歩む「並走者」としての役割が大切だと考えています。そのために、会議の始めや終わりにワークショップを取り入れたり、対話の時間を確保したりしています。

最後に発表しました。12月のYSFでは使用言語が英語になるので、会議資料を英語でまとめたり、英語で発表や議論したりしていきます。海外の方と交流が難しい今だからこそ、英語を使える環境を最大限に活かせるよう準備していきます。今後も「主体性」「協働力」「課題解決能力」を重点的に、教員も一丸となって国際学科の教育を展開していきます。

◆YSMの近況報告

スポーツマネジメント科主任 廣濱 優

スポーツマネジメント科は、今年度入学生が10期生となり、10年目を迎えることができました。昨年度から教育課程が改定され、スポーツマネジメント科でも大きく変更いたしました。本科の特徴であるYSMP(総合探究)の授業では、将来のキャリアを見据え、スポーツに携わる仕事の各スペシャリストを講演者としてお招きし、仕事の内容からスポーツ界の現在の状況などを詳しくお聴きしております。

スポーツマーケティングやスポーツブランディング、スポーツ心理、スポーツメディアなどそれぞれの生徒が興味をもった分野についてさらに探究を行い年度末に発表を行います。どの講演者からもスポーツ界の市場は日本にとどまらず、海外に広

がっており英語力の重要性を説かれておりました。そのようなことからYSMPの時間でも月に1時間の英検取得講座を実施しております。昨年度の実績は、7名の生徒が準2級に合格しました。もともと勉強が得意ではなかった生徒もいましたが、地道に努力することで成功体験へと結びつけることができました。

スポーツマーケティングの授業では、神奈川県民球団フューチャードリームスと産学連携協定を結び、実際の現場での実習や公式戦でのイベント企画など、高校生では経験できないようなこともさせて頂いております。現在、フューチャードリームスには本校商業科卒業生である恵健透選手が所属しており、Y校生がイベントを企画し、恵健選手が活躍する場面が見られるかもしれません。今後に、期待してください。最後に、スポーツマネジメント科3期生の川邊雅希さんが非



常勤ではありませんが、ストレングストレーナーとして本校トレーニングルームに勤務することになりました。今後も生徒の活動が実り多きものになるよう教職員一同頑張っていきたいと思えます。

◆商業高校生の進路

進路キャリアガイダンス部

主任 井上 隆博

皆さんは「商業高校生の進路」と聞くと、どのようなイメージを持っていますか。多くの方が「就職」というイメージを持つのではないのでしょうか。全国の商業系学科卒業生の進路は35%が就職、30%が専修学校等、約30%が大学・短大となっています。ただし本校の進路は、昨年度の卒業生で約60%の生徒が大学、約15%が専修学校、約15%が就職という実績でした。就職という強みは残しつつ、社会のニーズに合わせて、大学進学にも対応できるようにしています。

大学入試に関しましては、2020年度入試から、それまでの筆記試験や学力不問の入試から、「学力の3要素」をバランスよく測る入試へと大きく変わりました。さまざまな側面から社会構造が変化しているなか、社会に人材を供給する立場にある大学も、大きな変革を迫られているためです。これまでの「知識・技能」だけではなく、社会を生きる力として課題解決能力などが求められるよ

うになったことから「思考力・判断力・表現力」を一層重視するという考えが新入試制度のベースにはあります。高校においても、「知識・技能」だけではなく、「思考力・判断力・表現力」「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」を育成することが求められていきます。もともと商業高校での学びは、学力の3要素をバランスよく身に付けられるものであったため、この大学入試改革は、本校においてプラスに働いていると感じております。

また、民間就職に関しましては、20年以上就職希望者の内定率100%を誇っております。企業は、明るく元気で健康であることはもちろんのこと、コミュニケーション能力や行動力、調整力、協調性や主体性を求めています。本校の生徒は、伝統校ということもあり、挨拶ができしっかりととした礼儀などが身についている生徒が多いです。大手の企業から内定をいただく生徒も多く、毎年多くの優秀な生徒が即戦力として社会に出ております。

そして、近年、本校生徒の進路先の特徴として見て取れるのが、公務員希望者の多さです。本校では専門学校と連携し、年間50回を超える講習会やさまざまな自治体の採用説明会など充実したサポート体制があります。結果として、昨年度の卒業生は、延べ総数で30名を超える最終合格をいただいております。これは、他校

と比較をしても圧倒的な数です。今年度の3年生の進路希望は、4月現在、民間就職25名、公務員40名、大学・短大162名、専門学校34名となっています。今後も、生徒の進路実現に向けて引き続き支援していきたいと考えています。

◆後援会

副会長 小島 勇

後援会は入学時の入会費と毎月頂く会費を管理運営しています。集められたお金を予算検討委員会で議論して、学校の予算で出せないもので必要なもの等に予算を使っています。具体的な例として、部活の関東大会・全国大会出場時に使用する懸垂幕・横断幕、教室のロッカーの取り換え、冷水器の設置、WiFiの設置費・管理費等です。

部活の関東大会以上の出場時の活動補助・教育環境整備費・生徒学習補助費・部活動援助金・環境整備費・生徒会援助金の管理もしています。

後援会は今年度、相原会長、小間物校長はじめ三十人です。PTAを卒業された方々に二年間活動していただいています。PTA活動中に気が付いたことなど意見を聞きながら後援会でできることなど決めてきました。

これからも後援会活動を活性化できるように頑張って活動してまいります。宜しくお願い致します。

後援会役員

役名	氏名
会長	相原 敏貴
副会長	小島 勇
副会長	川那子 幸子
常務理事	佐藤 しのぶ
監事	板橋 美智子
会計理事	渡辺 清美
理事	古屋 文雄
理事	安川 栄一
理事	福岡 聖幸
理事	高橋 薫
理事	岩坪 夕貴
理事	国井 秀子
理事	谷山 佳奈子
理事	星野 ひろみ



理事	松下 更
理事	宮本 幾子
理事	飛鳥井 純恵
理事	大山 幸雄
理事	福本 久美子
常務理事(学校)	小間物 晃弘
監事(学校)	杉浦 正則
監事(学校)	堀 慶司
監事(学校)	西岡 健一
理事(学校)	辻 佳代子
理事事務担当(学校)	長尾 寛征
会計理事(学校)	足立 英里佳
会計理事(学校)	小山 直人
会計理事(学校)	加藤 佳嗣
顧問	平石 満
顧問	平林 直人

◆Y校おやじの会

会長 加藤 淳一

おやじの会は、2005年の発足から、足掛け19年目を迎えました。

今年度も在校生の保護者と卒業生の親御さんであるOBの方々力が合わせて、『Yガーデンや校内施設の清掃・維持管理』『外周の清掃』等の活動をしております。

月1回2時間程度の活動ではありますが、生徒たちの元気を挨拶にこちらが元気を貰えたり、地域の方々から「ご苦労様です」とお声掛け頂き、Y校が地域の方々に愛されていることを感じられたり、とても良い時間を過ごせています。

また活動後のひとつ風呂やおいしいお店での一杯で交流を深め、Y校

や地域の情報、子供たちの様子、卒業後の進路の話等、様々な情報交換も行ってまいります。

新型コロナウイルスによる行動制限も緩和されつつあります。まだまだ気を緩め過ぎる訳にはいきませんが、新たな生活様式の中での活動や生徒・学校へのサポート体制を模索してまいります。また、コロナ禍前に行っていた『Y校祭への模擬店出店』や『おやじカレーの振舞い』等、OBの方々が培ってきた活動を復活させていければ、と思っております。

来年度は20年目を迎えることとなります。おやじの会は今後もY校の発展や地域の為に陰ながらサポート出来るよう精いっぱい頑張りますので、引き続きご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

Y校部活動だより

◆硬式野球部

硬式野球部顧問 廣濱 優

日頃より多大なる御支援御声援をいただき誠にありがとうございます。

ようやく新型コロナウイルスの影響なく、4年ぶりに通常通りに選手権大会が開催されることをありがたく思っております。

この127期は、1試合目、1回、1打席目、1球目とさまざま

と指導者、OBスタッフとともに束となって取り組んでおります。秋季県大会では、3回戦敗退と悔しい思いをし、選手はそこからの半年、歯を食いしばりながら技術を向上するだけでなく、精神的にも大きく成長することができました。迎えた春季県大会は初戦から苦戦を強いられました。初戦は四回まで0-8のビハインドからの逆転勝利、3回戦は9

回まで6-8のビハインドからの逆転勝利と切羽詰まった状態からの勝利となりました。選手はこの一冬で大きく成長しており、追



い込まれている状態でも、「自分たちは何とかできる。」と、あきらめることなく最後まで実力を発揮して

いました。続く四回戦も東海大相模を相手に7回まで0-7とコールド寸前までいきましたが、そこから3点、1点と返し、逆転まではいきませんでした。何とか最後まで食らいついて戦うことができました。この戦いから全国のレベルを感じるこ

とができ、負けはしたものの大きな収穫になりました。33年ぶりの夏の甲子園に向けて、

選手たちと日々精進し、選手権大会に臨みたいと思います。今後とも御指導御鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

◆Y校軟式野球部の活動について

軟式野球部顧問 佐藤 邦宏

令和3年度第67回全国選手権出場に際し、進交会員の皆様には応援と多大な厚志を頂きましたこと、心より感謝申し上げます。また、昨年度行われました春季関東大会においては、皆様の応援が力になり67年振りの準優勝という結果を出すことができました。残念ながら、夏の大会は、準々決勝戦当日に体調不良者が続出し、9人揃わず辞退と悔しい結果となりました。

新年度になり、私の監督経験上、最も多い16名の1年生が入部してくれ、チームに活気が出てきています。昨年の雪辱を果たすべく、夏の大会に臨みたいと思います。応援はもちろん、今後、軟式野球部への指導、ご鞭撻のほどよろしくお願



いたします。

◆卓球部 活動報告

卓球部顧問 中西 亮太

日頃より卓球部への応援ありがとうございます。

新年度が始まってから、卓球部がテレビ東京の番組に特集していたことで、大きな反響をいただきました。生徒たちも刺激になったようで、日々の練習はより充実したものになりました。

4月から行われた関東大会予選では、女子学校対抗で準優勝、女子シングルスでムンフバヤルが8位入賞したことで、本戦への出場権を獲得いたしました。

また、惜しくも代表権は逃したものの、男子学校対抗5位、男子ダブルスで白松・吉元ペアが4位、女子ダブルスで加藤・ムンフバヤルペアが5位、藤間・小宮山ペアが6位、男子シングルスで吉元が16位、女子シングルスで藤間が10位、池上が14位でそれぞれ入賞しました。6月に東京都で行わ



れた関東大会本戦では、女子学校対抗は2回戦進出。また、女子シングルのムンフバヤルは初戦敗退となりました。それぞれ目標には届かなかったものの、出場した選手たちは練習の成果を発揮し、貴重な経験を積むことができました。

5月から行われたインターハイ予選では、女子学校対抗で準優勝、男子学校対抗で4位、女子シングルスで池上、藤間、ムンフバヤルが9位、男子シングルスで白松、吉元が9位、女子ダブルスで藤間・小宮山ペアが5位入賞となりました。それぞれ代表権は逃したものの、3年生が引っぱり続けたチームは、全力を尽くし、有終の美を飾ることができました。

現在は、2年生主体の新チームとなり、勝敗や結果に拘りすぎず、自身の成長とレベルアップにフォーカスしながら全力で頑張っております。その中でも、オフを定期的にとりながら心身共に余裕のある状態を目指しながら練習を行っております。卓球場での応援はもちろんです。試合会場での応援が可能になっておりますので、会場での応援もよろしくお願いたします。

◆ボート部「ボート競技をを通して」

ボート部顧問 中里 彰吾

日頃より多大なる御支援を頂きまして誠にありがとうございます。昨年度のインターハイ県予選では男



「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」ということです。選手たちにはいつも「普段の生活が全部レースにできるよ」ということを話してい

子クオドルプル(5人乗り)が慶應義塾高校に勝利し、7年ぶりにインターハイに出場することができました。今年度も男女ともに4種目がイもひとえに卒業生、前顧問の會田先生をはじめ多くの方々の支えがあったてこそその結果であると身に染みて感じております。

さて、ボート部の顧問になって一年が経ちましたが、ボートという競技は本当に特殊な競技だと感じます。日々、昨日の自分を超えるべく厳しいトレーニングをこなし、週末は相模湖でひたすら漕ぎの技術・体力を高める。1試合は約4分で勝敗が決まり、これまで費やした練習時間に対して、本当にあっけなく試合が終わってしまします。4分弱のレースに対して注ぎ込む時間は生活のほぼ全てです。

これまでにいくつかの大会を見してきましたが、その中で思うことは「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」ということです。選手たちにはいつも「普段の生活が全部レースにできるよ」ということを話してい

麵処 おおぎ (進交会館1階) うどんと酒肴




◎馬車道・横浜市役所前店(進交会館1F)
横浜市中央区相生町6-111 電話 045-681-2152

◎大通り公園前本店
横浜市中区蓬萊町1-1-3 電話 045-243-0390

◎常磐町店
横浜市中区常磐町3-22-3 電話 045-232-4040

tatesin 商業施設・オフィス・リノベーション・設計施工

株式会社タテシン

会長 渡辺清和
(Y校 昭和45年卒 バドミントン部)

一級建築士事務所

〒 232-0022 横浜市内南区高根町4-29

☎045-242-1320 ☎045-262-4026 (不動産部)

ます。生活の全てとは練習している時間だけでなく、授業に臨む姿勢、人の話を聞く態度、食事をする時などの一瞬一瞬の行動が全部勝負に繋がっているということです。いくら技術・体力があってもそれを発揮できるかどうかはこれまでの行動の積み重ねによって決まります。普段の生活をいい加減にしていたら、勝負の時に万全の準備・心持ちで臨むことはできません。負けたレースには必ず負ける要因があるということは競技をしている選手自身がわかってはるはずで。

選手たちは自ら掲げた「インターハイ優勝」という目標を達成するため日々自分の行動を見つめて、自身と向き合っています。

競技者としての実力を高めつつ、ポット競技を通して人間的にも成長していると顧問の立場から感じています。Y校の練習環境・時間・内容は日本一整っています。後は日本一の心がけです。日本一にふさわしい、応援される部活になるために日々精進して参りますので今後とも変わらぬ御支援・御声援のほど宜しくお願い申し上げます。

◆ワイプロボ部の活動状況

ワイプロボ顧問 阿部 英俊

ワイプロボ部は一年生六人、二年生一人、三年生九人の計十六人で活動しています。三年生を中心に、全国大会団体出場を目標に取り組ん



できました。六月に行われた第五十六回神奈川県高等学校ワイプロ競技大会では、団体二位、個人三位、五位、六位と入賞しました。団体出場はかないませんでした。三位入賞の山本健留さん、八月の全国大会に出場することになりました。普段から自主的に熱心に練習に取り組んできた成果だと思えます。これからも、一人ひとりが目標を立てて取り組み、目標達成に向けて練習していただけることを願っています。

◆Y校簿記部の活動について

簿記部顧問 宝珠山 悟

令和五年度も限られた部員数の中、生徒たちは日々活動を行っています。平日は約二時間、土曜日は約七時間の活動を年間を通して続けています。コツコツと部室で勉強を続けていく単調な活動ですが、毎日繰り返し行うことに意義があり、継続することが大切であると部員たちは自覚しています。

運動部と違い、日々の活動やコンクールでの取り組みなどがなかなか皆様の目にしていただけない環境ですが、本当に部員たちは頑張っています。

そうした中、六月の中旬に本年度も本校を会場として、全国簿記競技

大会の神奈川県予選が行われました。昨年度は現部長の伊藤陸馬君が2個人で優勝し、個人代表として全国大会に臨みました。団体も、優勝した厚木商業高等学校に肉薄する点差での二位と健闘しました。

今年度は、昨年度に引き続き、個人での優勝と、団体での優勝を狙って取り組んでまいりました。結果は個人で伊藤君が第三位、団体では昨年引き続き第二位となりました。伊藤君は七月一六日に実施される全国大会に二年連続で出場することが決まっています。

昨年度は、簿記部として久々の全国大会への挑戦ということで、団体二位という結果に多少は満足感がありました。しかし、今年度は、一年間しっかりと時間をかけて取り組んできたので、団体優勝を逃したのは、部員たちにとって大変悔しい結果だったはずで。他校は予選会を何年も経験しており、そうした経験の差もあつたのではないのでしょうか。力のある三年生が来年度は不在となつてしましますが、現二年生以下の部員が悔しい思いを忘れずに日々の活動を続けていけば、来年度には我々の活動が花開くと信じて、また日々の活動を続けていきます。ぜひ、こうした文化部の活動にも関心を持っていただくと幸いです。これからもよろしくお願いいたします。

◆Y校硬式野球部OB会主催の少年野球教室開催について

Y校硬式野球部OB会会長 長谷部 淳(昭53卒)

2013年1月7日Y校グラウンドにて、少年野球13チーム177名が参加し、Y校硬式野球部OB会による野球教室を開催しました。

開会式では、主催者並びに横浜市南区小学生野球連盟理事長 宮森様の挨拶に続き、今期からプロ野球独立リーグ・ベースボール・チャレ



【少年野球参加チーム】

21Sイーグルス、オールヤング、井土ヶ谷フレンズ、弘明寺北ノ前少年野球部、永田台少年野球部、横浜プレイズ、千保ジャガーズ、日枝ヤングブラザーズ、通町ピューマーズ、竜虎クラブ、清水が丘ジャイアンツ、市場ハリケーン、岡村クラブ

ンジリーグ所属神奈川ヒューチャー
ドリームスに入団が決まりました。恵
健透さん（平成30年卒）の激励セラ
モニーを行いました。

皆様、恵君の応援よろしくお願
いいたします。

野球教室では。OB指導者45名が
参加、現役大学選手も参加し熱心に
ピッチング・打撃・守備指導いた
だいたOBの皆様ありがとうございました。

同期会だより

◆Y校昭和46年卒業生、古
希同期会(70歳)開催

幹事代表 中山 正仁(昭46卒)

令和5年5月21日(日) 横浜中華
街ロイヤルホールヨコハマにて女性
48名 男性35名 先生2名(新倉先
生、古屋先生) 合計85名にて盛大に
行いました。当日は5月の新緑と晴



天に恵まれ、参加者一
同コロナ禍で
の自粛生活明
けと共に65歳
同期会から5
年ぶりの再開
と会話をす
喜びを分かち
合いました。
両先生とも
お元気で、Y

校の校長時代の話に花を咲かせてお
られました。

ホテルのフルコースの食事を堪能
し、お酒も程々いただきあつという
間の2時間半がすぎ、最後に恒例の
応援歌、校歌を高らかに歌い上げ終
了し、中華街2次会へと消えて行き
ました。次回喜寿同期会(77歳)
2029年5月第3日曜日に再会す
るまで、皆さんお元気で過ごしく
ださい。

◆Y校の創建者「小野光景」
の功績と偉大さを学ぶ

川口 剛史(昭40卒)



Y校・市
大の卒業生の
皆さん！小野
光景という名
をご存じで
すか？恥ずか

しながら私自身も平成17年発刊の財
界人という本の記事を読むまで全く
知りませんでした。この本の記事で
「教育」で横浜150年の礎を築い
た人々・横浜開港ゆかりのY校の歴
史をたどるとい記事を読んで始め
てこんな素晴らしい人がY校を創建
した人だと知りました。公人であり
ながら様々な事業を起業し横浜港の
発展に尽くした小野光景はY校の創
建者であり後半生をY校に捧げた人
物であるとありました。そこでもつ
と詳しく知りたいと思ひY校の創立
100周年記念誌、120周年記念

誌、130周年記念誌を読み返して
みるとY校の元校長である山田瑛氏
が詳細に小野光景のことを書き示し
てありました。

Y校への主な功績、経歴を要約す
ると信濃の国伊那郡小野村の名家、
小野兵右衛門光賢の子として生まれ、
21歳の時横浜の実父のもとへ出浜し
父の公務を手伝う。明治10年に歩合
金取立掛総理となり、歩合金問題に
遭遇。その後本町外13ヶ町の戸長と
なった。1882年(明治15年)横
浜商業高校の前身にあたる横浜商法
学校を創立。翌16年、小野商店を開
業したことが貿易商としての始まり。
その後横浜正金銀行(東京)頭取、
横浜商法会議所会頭等を歴任。郷里
の小野で小野駅の開設や、私財を投
じての学校、図書館、病院等の建設
に貢献した。

【Y校の維持発展に寄与】

小野光景は資材を投じて学校の運
営を支えた。財政面の援助や運営面
の助言は本町外13ヶ町立から横浜市
に移管されるまで続いた。

”光景がいなかったらY校は存続
していなかった”といっても過言で
はない。

こんなに素晴らしい人のことを何
で、もつとY校生や卒業生など関係
者に知らしめないんだと強く思い、
それから進交会・Y校会の会議や行
事がある度に発言してきましたが、
なかなかことが進みません。そこで
自らが進んで行動しなければ思っ



る光賢・光
景の生誕記
念碑および
光景が郷里
の人々のた
めに創立し
た諸々の建
物、公園等

いることが先に進まないと考え、小
野光景関連施設を見学し関係者に小
野光景をよく知ってもらうことが先
決だと考えました。

平成6年9月18日(光景の命日)
に小野忠秋氏によって建立された、
光賢・光景記念館及び平成24年9月
9日に郷里小野宿の人々の建立によ

不動産の自主管理直接取引をサポート

株式会社 アセットサポート

045-534-9072

『賃貸管理を思いのままに』

全てを他人に任せるのではなく、全部自分でも無い
メリットを組み合わせた賃貸管理を提案します。

後藤智恵美(商学部 昭和62年卒 旧姓:大谷)

ホームページはこちら

おさぼ

と光景の別邸地であった本牧臨海公園に平成15年11月13日に忠秋氏が建立し、当時の横浜商工会議所高梨会頭や古屋校長他Y校関係者が出席し除幕した小野光景顕彰碑です。

信州辰野にある光賢・光景記念館は小野忠秋氏が鎮魂の小館を建て広く開放し、これを子々孫々に伝えて建立されたものです。

忠秋氏は開館以来、ややもすれば時とともに忘れられがちな光景の名を慕い懐かしむ人々が近隣はもとより横浜、東京、遠くは九州からおいでいただき感激しているとY校120周年記念誌で述べています。

さらにまた、Y校会の皆様にも平成12年秋9月にバスで大勢の方のお越しをいただき面目を新たにしようと語っておられたにもかかわらず、それ以後、会として訪問してません。忠秋氏も亡くなり現当主の景久氏も高齢になり一人身ということで記念館の存続自体が今後難しくなることも考えられます。昨年、Y校が創立140周年を迎えられたのは山田瑛さん曰く、創建者の小野光景さんがいたからこそであると言っているのを重く心にとめるべきと考えます。

委員会で信州の小野記念館訪問について提案し、承認され、役員会にて今秋小野記念館訪問を同意いただきましたので、訪問日時等詳細は後日お知らせいたしますので、皆様是非記念館訪問にご参加ください。

Y校会だより

☆Y校会について

Y校会は一般社団法人進交会の内部組織として、平成9年に母校Y校及び在校生への支援と会員相互の親睦を図ることを目的として発足しました。

○会費 年間1,000円

※進交会会費とは別枠になります。

○現在の会費納入者数は540名

お問合せ・詳細は・・・

Y校会事務局(安川(昭44卒)迄)

電話 045-681-6575

☆Y校会活動について

【Y校会海外研修奨学金の支援】

海外研修を目指すY校生、その志に添えて、今年はコロナ禍によりホームステイからホテル宿泊への変更、円安等により費用が高額化したため、特別措置として1名15万円、計75万円を支援しました。

【Y校会総会】

令和5年2月18日(土)、進交会館3階で56名が出席し開催。収支報告案、事業報告案、事業計画案が承認されました。

【社会見学会】

○小野光景研修会と関連施設訪問
令和5年5月29日(月) 10時～17時
午前の部 進交会館3階で勉強会
午後の部 貸切バスで小野光景墓地、本牧臨海公園他関連施設訪問
参加者 24名

【糸掛けアート講習会】

6月8日 12名参加

【麻雀大会】

6月23日 20名参加

【歌舞伎鑑賞教室】

7月26日・27日 35名参加

【暑気払い】

8月2日 51名参加

【10月～12月の主な行事】

10月 落語鑑賞会

12月 Y校会の集い

Y校創立140周年記念行事報告

【記念式典(Y校主催)】

日時…令和4年11月11日(金)
会場…みなとみらい大ホール
出席者…横浜市長、市大理事長学長、他910名

各来賓の挨拶に続き、横浜市消防音楽隊、Y校吹奏楽部の演奏会を終了

【祝賀会(Y校会主催)】

日時…令和4年11月12日(土)
会場…横浜ロイヤルパークホテル
出席者…Y校校長、市大学長、美澤家ご親族、会員他191名が出席



【祝賀会(Y校会主催)】
日時…令和4年11月12日(土)
会場…横浜ロイヤルパークホテル
出席者…Y校校長、市大学長、美澤家ご親族、会員他191名が出席



“I Care Everybody Company”

あらゆる人々に慈しみの心をもって
接する企業でありたい



フローズン事業部
アイスクリーム・冷凍食品の卸売



スーパーマーケット事業部
スーパー生鮮館TAIGAの運営

株式会社 **アイスコ**

神奈川県横浜市泉区新橋町1212
TEL : 045-811-1302 FAX : 045-812-1001
(Y校 昭和41年卒)

アトラクション…☆高田柗氏（市大卒）世界一のヨーヨーパフォーマンス
 ☆大庭暢男氏（Y校昭58卒）トークショー

☆Y校吹奏楽部OBバンド演奏盛会で終了

Y校部活OB会情報交換会を開催

Y校会副会長 武田 満明(昭47卒)

○日時…令和5年8月5日(土)

○会場…進交会館 3階会議室

○参加部活(13部活 23名)

応援団、弓道部、硬式野球部、サッカー部、新聞部、吹奏楽部、体操部、卓球部、軟式野球部、バスケット部、バドミントン部、バレー部、ボート部

○テーマ

1. 各OB会の現状について(会員数、OB会開催状況、現役との交流等)
 2. Y校会の支援、協力、学校との連携に関する意見、要望
 3. 他のOB会への質問等
- 各OB会の状況、意見
1. 対象年代、参加人数にばらつきはあるがOB会は概ね開催されている。
 2. 商業高校の現状は厳しく、スポーツによりY校の知名度、存在感を高めることが必要で、OB会の役割は大きい。
 3. 現役支援費用の捻出に悩みを

抱えている部活もある。

1. Y校会の、学年同期会開催支援による横のつながりに、部活OB会を通じた縦のつながりを加えることにより、懇親の強化と組織の拡充につなげていく。

2. 今後、定期的なOB会情報交換会を開催することにより、各OB会のさらなる活性化と、発展の一翼を担う。



Y校会の集い

○日時 令和5年12月2日(土)

12:00~14:00

○会場 ローズホテル横浜

※4年ぶりに開催予定です。詳細は10月にご案内します。

Y校会 令和4年 収支報告書 (令和4年1月1日～令和4年12月31日)

【収入】

(単位 円)

科目	一般会計	母校支援基金	合計
前期繰越	2,461,085	4,174,348	6,635,433
Y校会会費	1,489,848		1,489,848
利息	11	32	43
合計	3,950,944	4,174,380	8,125,324

【支出】

科目	一般会計	母校支援基金	合計
総会費用	59,350		59,350
部活動・同期会支援金	25,000		25,000
墓参会費用	129,550		129,550
140周年祝賀会開催費	1,196,715	643,000	1,839,715

会議費	1da		85,945
郵送費	141,664		141,664
郵便局手数料	96,940		96,940
台湾学生 YSF 支援金	30,000		30,000
NY 海外研修奨学金	0		0
SDGs 活動支援金	0		0
印刷費	373,190		373,190
雑費・消耗品	572		572
振込手数料	6,110		6,110
その他事業費	94,820		94,820
合計	2,247,156	643,000	2,890,156
次期繰越	1,703,788	3,531,380	5,235,168

創業90周年の
総合印刷メーカー

横浜リテラ

全作業エリアにクリーン環境を配備した
 アッセンブリ加工に特化した新工場が稼働中!
 詳しくはQRコードから



ご相談・お見積りなどお気軽にお問い合わせください

〒245-0053 横浜市戸塚区上矢部町1965-4 TEL:045-811-2821

訃報

平成26年 遠藤 圭吉 (昭23Y)
平成27年 細貝 昌子 (昭35Y)
平成29年 関戸 和行 (昭30Y商)
花輪 豊二 (昭27Y普)
福井 朋子 (昭27Y普)
佐藤 春子 (昭38Y)
割沢 勝弘 (昭45Y)
平成30年 金子 辰雄 (昭21Y)
平成31年 鈴木 稔 (昭31Y普)
令和2年 大石 昌一 (昭15Y)
染谷 桂助 (昭22Y)
石井 忠夫 (昭23Y)
浅野 英治 (昭28Y商)
齋藤 幸男 (昭29Y商)
松田 通子 (昭30Y商)
鈴木 由利子 (昭38Y)
扇 健一 (昭50Y)
長谷川 裕美子 (昭51Y)
令和3年 佐野 肇 (昭16Y)
鈴木 省二 (昭20Y④)
佐伯 守康 (昭26Y普)
遠藤 弘子 (昭26Y商)
渡辺 保明 (昭28Y普)
青柳 文男 (昭28Y商)
高山 満生 (昭29Y商)
秋田 耕作 (昭30Y普)
佐藤 仲一郎 (昭30Y商)
森藤 庸子 (昭30Y商)
本田 益嘉 (昭33Y)
令和4年 本田 弘 (昭46Y)

藤本 明雄 (昭14Y)
岩野 富雄 (昭15Y)
泉名 一男 (昭16Y)
植村 功 (昭17Y)
紙屋 健一 (昭17Y)
早坂 昇治 (昭18Y)
石橋 喜夫 (昭20Y⑤)
小林 昭忠 (昭20Y④)
田邊 稔 (昭20Y④)
今市 繁春 (昭23Y)
斎藤 胤雄 (昭23Y)
関野 薫 (昭23Y)
外山 光男 (昭23Y)
橋本 勝美 (昭23Y)
越本 弘行 (昭24Y旧)
宍戸 恵美子 (昭26Y普)
石川 幸雄 (昭27Y普)
神崎 政敏 (昭27Y商)
小菅 隆一 (昭27Y商)
竹内 義雄 (昭27Y商)
土井 義雄 (昭27Y商)
和田 満 (昭27Y商)
和藤 美満 (昭27Y商)
松本 是美 (昭27Y商)
佐久間 福夫 (昭28Y商)
前神 敬夫 (昭28Y商)
榎田 誠夫 (昭28Y商)
植子 鶴松 (昭29Y普)
金子 日出男 (昭30Y普)
石井 貞行 (昭30Y普)
高橋 正明 (昭30Y商)
斉藤 孝明 (昭31Y普)
秋山 孝之 (昭31Y普)
廣島 孝之 (昭31Y商)
大胡 勲 (昭31Y商)
河原 成美 (昭31Y商)
宮原 亮 (昭31Y商)
内海 清 (昭32Y)
太田 光清 (昭32Y)
藤池 武子 (昭34Y)
町田 武人 (昭34Y)
粕谷 静江 (昭35Y)

齊藤 由紀子 (昭37Y)
川上 光恵 (昭38Y)
大貫 道之 (昭39Y)
林和 明 (昭39Y)
目島 晃子 (昭40Y)
谷口 隆太郎 (昭41Y)
東城 美和子 (昭43Y)
樋川 初美 (昭43Y)
根本 一男 (昭44Y)
鈴木 敏 (昭45Y)
江田 壮也 (昭46Y)
門井 栄 (昭46Y)
中瀬 洋二 (昭46Y)
嶋中 知子 (昭46Y)
川口 正広 (昭48Y)
鈴木 尚重 (昭48Y)
小塚 信吾 (昭57Y)
永塚 泰之 (昭5Y)
新川 達哉 (昭11Y)
令和5年 井上 一 (昭20Y④)
池田 俱枝 (昭26Y普)
中村 節子 (昭26Y普)
内田 敦夫 (昭28Y普)
南田 信一郎 (昭28Y普)
石田 靖幸 (昭29Y普)
高村 義一 (昭29Y普)
山本 佳彦 (昭30Y商)
植松 信雄 (昭31Y商)
中里 武司 (昭33Y)
平井 治司 (昭33Y)
馬淵 武利 (昭33Y)
佐藤 堯子 (昭34Y)
中山 良一 (昭40Y)
宮崎 和子 (昭45Y)
不明
上野 哲夫 (昭15Y)
矢口 照夫 (昭29Y普)
田中 泰明 (昭38Y)
澤野 明 (昭42Y)

◆素晴らしい会合が進交会にあります 毎週2回同窓会開催中

進交会 囲碁クラブ

大塚 隆(Y昭29・商昭33卒)

進交会の囲碁クラブの募集広告が、昨秋、家に届いたY校の同窓会の機関紙に載っていたので、早速、昨年11月に入会しました。

例会は、進交会館の3Fの会議室で、毎週火曜日と土曜日の午後1時から4時迄、開催され、和気あいあい、かつ、真剣に碁を打っていました。会員は、Y校と市大の卒業生なので、入会した瞬間に、旧知の感じで、会の雰囲気溶け込めました。

囲碁の棋力は、初心者から上級者迄さまざまでした。

午後4時に碁会が終わると、時間の都合が付く人達が、下の2階のレストラン「みなとクラブ」に集まって、ビールや日本酒、ウーロン茶、コーヒー等々の飲み物とおつまみで、雑談をします。

雑談の内容は、学生時代の思い出話や同級生・先輩・後輩の動向、卒業して勤務した職場の話、現在の境遇等々です。

この茶話会は、正に、「同窓会」です。



毎年開催していた昭和33年卒の同期会が、集まる人数が少なくなり、数年前、終りになってしまい、寂しくなっていました。この度、週

RIM create the new thing and send it
広告企画・デザイン制作立案・印刷全般
スポーツウエア・ユニフォームプリント
株式会社 ライム
〒232-0067 横浜市南区弘明寺町259 GM2ビル2F
TEL.045-315-5918

進交会囲碁クラブからのお知らせ
当クラブは登録会員30名で毎週火曜日・土曜日午後、進交会館3階会議室で、週例碁会を行い、年間行事も色々行っております。是非、皆様からお気軽に当クラブへの加入を、大歓迎いたします。ご連絡は……進交会事務局
☎045-681-6575迄
代表幹事 長瀬哲朗(Y昭33)

2回も、開催されているこの「同窓会」に出席出来、学生時代を思い出し、毎回感動し、感涙のなみだが出ています。こんなに素晴らしい囲碁クラブは、日本中どこを探してもないでしょう。一寸でも、囲碁の打てる人は、「百聞は一見にしかず」ぜひご参加下さい。

横浜市ふるさと納税で母校Y校を支援しよう

Y校会 事務局

Y校平成14年卒の方から以下の内容で、横浜市ふるさと納税を活用した母校（Y校）支援のご提案をいただきました。

年末の恒例として、個人的に「ふるさと納税」先の自治体を探していたところ、横浜市では寄付先として「学校」を指定して寄付ができるということが解り、「Y校」を指定して寄付を行いました。

横浜市内在住のOB・OGにはあまりメリットはありませんが、横浜市外や県外在住のOB・OGにとっては、ふるさと納税の返礼品（中華街の肉まんやハングリータイガーのハンバーグなど）を貰えて、且つ母校の支援もできるということになります。

是非、この制度を活用し母校への有意義な寄付につなげていただけたらと思います？

◎寄付申込手順

【横浜市役所HP】を開き → 暮らし・相談 → 子育て・教育 → 学校教育
各種手続き相談 → ふるさと納税「教育活動の充実」のご案内 →
Y校を寄付先の学校名に記載

すでに寄付活動をしている卒業生もおられると思いますが、横浜市以外に在住の方、大いにご活用をお願いします。また、Y校会でもY校への寄付活動を行っています。

ご協力のほどお願いいたします。

令和6年度

進交会新年懇親会のお知らせ

日時 令和6年1月27日（土）

午前11時30分開宴

会場 崎陽軒本店 4階

※詳細は進交会事務局まで

編集後記

菊香る候、進交会員の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、進交会報第89号は、Y校版と市大版の分冊発行3年目となります。それぞれの特色ある活動の様子をお読みいただいていることと存じます。

次年度には、進交会報90号となります。広報・HP委員会では、紙面のより一層の充実と工夫を進めたいと考えております。

そこで、会員の皆様から企画等の意見ご示唆をいただきたく存じます。左のQRコードからお願いたします。

あわせて会報への広告ご掲載も募集しておりますので、宜しくお願ひ申し上げます。

また、進交会ホームページをご覧の方々が増加傾向にあります。今後も母校愛を深め、進交会（同窓会）活動が活発になりますよう努めてまいります。

末尾となりましたが、ご寄稿・広告掲載いただきました方々に厚くお礼申し上げますとともに、皆様から会報やホームページへのご寄稿をお待ちしております。

会報・HP委員長

桑原 正子（市大文昭41卒）



まごころ・信頼・サービスをお届けします。



株式会社
横濱屋

●業務用酒類卸 ●スーパーマーケット

●お酒スーパー ●業務スーパー

〒232-0016

横浜市南区宮元町4丁目9番地 TEL 045(741)4747

Y校から今日（イマ）を目指して職人に賭けた『一生』
質実剛健を旨とし誠を尽くす職人になろうと
今、創業106年
量と模、小修理の専門店。和の文化を守る。

森下和装工業株式会社

代表 森下 正勝

昭37年Y校卒（硬式野球部）

〒245-0004

横浜市泉区領家3-9-7 電話 045-811-4696



森下正勝 著（文芸社）
『消費税は減税できる』絶賛発売中